

発行人：宮本ひでき



今できることを 今するのが私の仕事です

職業 新見市議会議員
行政書士

経歴

平成24年12月新見市役所退職

平成25年度4月新見市議会議員（1期目）

平成27年4月総務常任委員会副委員長

平成29年4月新見市議会議員（2期目）

令和元年5月総務消防常任委員長

令和3年4月新見市議会議員（3期目）

令和3年5月議会広報特別委員長

令和5年5月議会広報特別委員長

令和7年5月議会広報特別委員長

令和7年5月議会運営委員会副委員長

その他

平成25年度4月新見市農業委員

平成30年4月新見高校PTA会長

見守りデジタル機材導入

A級グルメの方向性

令和7年12月定例会

令和7年12月新見市議会定例会は、11月28日から12月19日までの会期22日間で開催されました。

2日目3番目の質問者として一般質問をしました。

見守りデジタル機材導入

認知症高齢者の見守り支援

問 全国的な高齢化の進展とともに本市においても、認知症高齢者の増加は現実的かつ喫緊の課題となっています。

認知症は、決して特別なものではなく、誰もが年齢や環境により発症し得る身近な問題です。ご本人だけでなく、ご家族、近隣住民、地域社会全体に深く影響を及ぼします。

そのため、認知症の方が安心して生活できる地域づくり、そして

その方々を支えるご家族の負担を軽減するための支援体制の確立が求められています。

認知症高齢者の見守り支援は、市民の安全・安心な生活を確保するうえで極めて重要です。

行政と市民が一体となって、取り組むべき重要政策であると認識しています。

認知症高齢者の見守りとしてどのような対策を取られているのか具体的に示してください。

答 認知症高齢者の見守りについては、民生委員、福祉委員等による見守りに加え、独居高齢者への個別訪問を社会福祉協議会へ委託して実施しています。また、高齢者等事業者見守りネットワーク事業において、事業者による見守り活動など、可能な限り多くの方々

による見守り体制の充実を図っています。

問 認知症高齢者の方は、今後増えていくと予想されますが、地域との支援体制、たとえば、学校・企業・地域等との連携状況をお示しください。

答 日頃からご家族や関係者で情報を共有しながら、認知症の方の見守りなどを行っていただいているが、万一、行方不明になられた時には、消防署等からの要請に応じ、情報提供を行っています。

問 認知症の方を家族などの方がいつも見守ることは、仕事の関係などで厳しいと思います。

この見守りGPSの導入により、従来、家族が常時見守る必要があった状況において、仕事中や外出中であっても、遠隔で確認が可能となります。家族介護者の心理的・時間的負担を、大幅に軽減するものと考えますが、執行部のお考えをお示しください。

答 見守りGPSを導入することで、認知症の方と離れていても、常に、居場所の確認ができ、家族の負担軽減になると考えています。また、認知症高齢者が行方不明になられた時でも、速やかに居場所を確認する手段として、有効であると考えられます。

見守りGPS（右図）とは、高



発行
宮本英基
新見市高尾1958番地7
0867-72-7671
090-9733-7671
info@miyamot
ohideki.jp



miyamotohideki.jp



友だち募集中！



YouTube



問 こちらをご覧ください



©Kyoso Mirai Group

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です

「おかえりシール」です。主に認知症の高齢者や子どもなど、道に迷ったり、行方不明になったりする可能性のある人を見守るための「2次元コード付きシール」です。

このシールを衣服や持ち物に貼っておくことで、万一、本人が外出中に迷ってしまった場合、発見者がスマートフォンで「2次元コード」

を読み取ることで、事前に登録された家族や支援者に通知が届きます。通知には、位置情報や状況などが含まれることがあり、家族との連絡手段として機能します。

また、制度として、市が支援する場合、家族・地域包括支援センター・警察・地域・民間事業者等が連携することで、地域全体で見守る体制の整備につながるものだと思います。

「おかえりシール」は、本市にとって必要なものだと考えますが、執行部のお考えをお示しください。

「2次元コード付きシール」の導入については、認知症の方が、行方不明になられた時など、発見した人が「2次元コード」を読み取ること、家族に連絡することができることから、見守り体制の一つになると考えています。

「見守りGPS」や「おかえりシール」は、全国的にも増えています。本市も導入を考える時期に来ていると考えますが、市長のお考えをお示しください。

「見守りGPS」や「2次元コード付きシール」の導入につきましては、認知症の方が行方不明になられた時に、早期発見するための有効な手段と考えています。

高齢者やそのご家族が安心して生活できる体制の整備を進めてまいります。

A級グルメの方向性

「A級の誇り」ステッカー導入は

「A級グルメ」についてお伺いたします。

新見駅にある看板（左の写真）です。



そこで本市では、14年前に「A級グルメフェア」が開催されました。このイベントは、地元A級食材を中心に展開され、「A級グルメに特化した」催しとして、多くの注目を集めていました。

会場の「まなび広場にいみ」は、当時、国道180号線が渋滞するほど来場者が訪れ、盛況に開催されていました。

その後、会場が手狭になったことから、「憩いとふれあいの公園」に移されましたが、それでも「A級グルメフェア」として、地元食材に特化した内容が引き継がれました。

ステージでは、「有名シェフによる料理イベント」や「千屋牛が当たる半額イベント」などがありました。

特に、注目されたのが、露店の販売です。



「A級グルメのまち新見市へようこそ」という大きな看板の前で、初めて本市を訪れ、記念撮影をされている方々は、新見市には、どんなおいしいものがあるのか、お土産には、何を選ぼうかと期待に胸をふくらませておられると思います。一方で、私自身は、たとえば新見が誇る千屋牛のステーキは、具体的にどこで食べられるのか、そもそも「A級グルメ」とはどういった定義や特徴を持つものなのか、A級グルメに再度光を当てて、見直す時期が来ているのではないかと考えます。

今回の一般質問では、「A級グルメ」とは何かについて、質問をさせていただきます。

一般的には、A級グルメとは、その地域の歴史や文化、特産食材を活かし、そこでしか味わえない「地域密着型のご当地グルメ」を指すものだと考えます。

本だと感じました。しかし、現在では、「FAN」という新たなイベントに変更され、市外からの出店が増え、地元食材の色が薄れてきていると感じています。

私はもう一度、「A級グルメフェア」として、A級の魅力ある食材やA級グルメに光を当て見直すべきではないかと考えています。

こうした背景を踏まえ、改めて申し上げたいのは、本市・新見には、地域の気候・風土・歴史に育まれた多くの魅力的な「A級食材」が存在しているということです。

これらの地元食材は、かつての「A級グルメフェア」を支え、多くの人々を魅了した地域の誇りとも言えるものです。

しかし現在、それらの食材が十分に活用されているとは言いがたく、観光資源としての発信力も以前と比べて低下しているように感じられます。

観光協会に展示されている商品



これからの新見市の観光振興や地域活性化を考えるうえで、A級食材を含め地域でおいしい食材の

掘り起こし、再評価・再発信し、A級グルメを作り「A級グルメのまち・新見」としてのブランド力を改めて築き直す、必要があると考えています。

イベント時だけでなく、いつでも地元食材を使った「新見らしいグルメ」を楽しめる仕組みづくりや環境整備は、今後のまちづくりにおいて重要な柱になると確信しています。以上の考えを踏まえ、次の項目について一般質問をさせていただきます。

「A級グルメ」とは、具体的にどのような食材・料理を指すのかお示しください。

明確な定義は設けていませんが、千屋牛・キャビア・ワインなどを代表する食材と位置付けブランド戦略として観光コンテンツに活用しています。

新見駅から降りられた方たちが、記念撮影などをされています。本市には、県内でも最上級と称される美味しい食材があります。

これらを活かした「A級グルメフェア」の復活を強く望みます。

地元でしか味わえない飲食店や土産物をそろえ、「これ、どこで食べられますか？」と聞かれた際に、すぐに、お店をご案内できるようにする。

イベントが終わった後も、年間を通じて、その店を目当てに訪れる方が増える。これこそが、A級グルメの本質ではないでしょうか。「A級の誇り」のステッカーを貼って、スーパーなどの店頭にも地元産品を並べる。

まさに「A級のまち・新見」の実現にふさわしい取り組みと感じています。この構想に対する、ご所見を、ぜひお聞かせください。

議会の情報

令和7年12月定例会主な内容

新見千屋温泉いぶき里指定管理審査終了

産業建設常任委員会に付託された新見市千屋温泉いぶき里の指定管理の指定について執行部より指定管理期間5年間・指定管理料3,500万円を上限とする議案が提出されました。指定管理料3,500万円の根拠及び隣接するいぶきの里スキー場の指定管理が3年で、スキー場と連携した上でも、同施設の指定管理も3年にした方が良いという意見などがあり、修正案を本委員会に提出するよう求めたが、執行部の提出がなかったため、審議未了となりました。

本市においては、千屋牛をはじめとした魅力ある食材を観光コンテンツとして活用し、地域経済の活性化や地域ブランドの向上に加え、市民の皆様の誇りの醸成につながる非常に重要な取り組みであると考えております。

A級グルメフェアの復活のご提案につきましては「FAN」を実施する「にのみ」のまつり実行委員会」と共有し、あり方を協議する中で、参考としてまいります。

また、議員提案のステッカーにつきましては、市外を含め有識者で構成する戦略会議において議論をしていきます。